

評価委員会名：中央区立京橋築地小学校・中央区立京橋朝海幼稚園外部評価委員会  
評価委員：松岡誠一郎委員長 徳堂康彦副委員長 森田俊秀委員 江村光良委員  
鈴木康介委員 中村輝樹委員 田中悟志委員

評価時期 令和4年2月

## 1 重点目標の評価

### 重点目標1 『確かな学力を育てる』について

1人1台タブレット端末が配布され、有効活用への努力の様子がうかがえる。反面、過剰な情報、視力等健康面への影響など、懸念されることもある。メリット・デメリットをしっかりと踏まえ、使うことありきではなく、子どもたちの学力を伸ばしていくための道具としてよりよい活用をしてほしい。また、子どもたちは与えられることで満腹になっているようにも感じる。子どもたちのもつ力を引き出す工夫が大切だと考える。

### 重点目標2 『互いに認め合い、思いやる人間関係を育てる』について

コロナ禍において異学年間の交流活動が十分に実施できなかったとのことであるが、本校のよさである子どもたちの縦のつながりの強さ、幼稚園との交流活動は今後も大切にしていってほしい。また、学校評価アンケート結果の、児童の悩みやトラブルへの対応に関する項目の数値が昨年度よりさらに低下している。学校はきめ細かな対応に努めていると考えるが、その要因を分析し、改善に向けた手だてを講じていく必要がある。

### 重点目標3 『丈夫な体とたくましい心を育てる』について

今の子どもたちは、運動に親しむ場に時間的・空間的な制約が多く、運動をするためには習い事やチームに所属しなければならないような状況がある。コロナ禍において、さらに運動の機会に制約が生じているが、子どもたちの体力の維持・向上のため、現状に合わせた水泳・持久走・縄跳びへの取り組み方の工夫・改善に努めてほしい。また、幼小を通して運動に親しむ場を設けていくという視点も大切だと考える。

## 2 今後の改善に向けた意見

行事等をコロナ禍だからと中止にするのではなく、可能な方法を見だし工夫している努力が見られとてもよいと考える。コロナ禍以前に戻すという発想ではなく、子どもたちの現状をしっかりと把握し、寄り添いながら無理なく前に進めていってほしい。

子ども同士の問題を解決する糸口が大人に委ねられ、子ども同士で解決する力が弱まっているように感じる。大人と子どもという縦の関係だけでなく、子どもと子どもという横の関係を問う設問をアンケートに入れていくことも検討してよいのではないかと。

## 3 その他の意見

特認校の枠が3学級分に拡大され、他地域から通学する児童が増えるが、京橋築地小学校に通ってよかったと思ってもらえることを願っている。